



31:19 今、次の歌を書きしるし、それをイスラエル人に教え、彼らの口にそれを置け。この歌をイスラエル人に対するわたしのあかしとするためである。

31:20 わたしが、彼らの先祖に誓った乳と蜜の流れる地に、彼らを導き入れるなら、彼らは食べて満ち足り、肥え太り、そして、ほかの神々のほうに向かい、これに仕えて、わたしを侮り、わたしの契約を破る。

31:21 多くのわざわいと苦難が彼に降りかかるとき、この歌が彼らに対してあかしをする。彼らの子孫の口からそれが忘れられることはないからである。わたしが誓った地に彼らを導き入れる以前から、彼らが今たくらんでいる計画を、わたしは知っているからである。」

31:22 モーセは、その日、この歌を書きしるして、イスラエル人に教えた。

31:23 ついで主は、ヌンの子ヨシュアに命じて言われた。「強くあれ。雄々しくあれ。あなたはイスラエル人を、わたしが彼らに誓った地に導き入れなければならないのだ。わたしが、あなたとともにいる。」

31:24 モーセが、このみおしえのことばを書物に書き終えたとき、

31:25 モーセは、主の契約の箱を運ぶレビ人に命じて言った。

31:26 「このみおしえの書を取り、あなたがたの神、主の契約の箱のそばに置きなさい。その所で、あなたに対するあかしとしなさい。

31:27 私は、あなたの逆らいと、あなたがうなじのこわい者であることを知っている。私がおおあなたがたの間に生きている今です

ら、あなたがたは主に逆らってきた。まして、私の死後はどんなであろうか。

31:28 あなたがたの部族の長老たちと、つかさたちとをみな、私のもとに集めなさい。私はこれらのことばを彼らに聞こえるように語りたい。私は天と地を、彼らに対する証人に立てよう。

31:29 私の死後、あなたがたがきつと墮落して、私が命じた道から離れること、また、後の日に、わざわざあなたがたに降りかかることを私が知っているからだ。これは、あなたがたが、主の目の前に悪を行ない、あなたがたの手のわざによって、主を怒らせるからである。」

モーセは歌を書きしるしました。歌という言葉を感じるのに、とても効果的です。また共に歌うことができるので、その内容において一致の心が生まれます。詩篇などはその良い例です。私たちも、主への信仰の歌を大切に、またその力を使いましょう。

そしてモーセは主のことばを引用して、自分の後継者であるヨシュアを励ましました。人を励ますときにみことばほど力のあるものはありません。自分のことばや経験で人が元気になれば、うれしいですし誇らしいものですが、人のことばには一時的な力しかありません。主のことばを与えてあげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

